



滋賀県青少年赤十字指導者協議会
日本赤十字社滋賀県支部

JRCしが

j u n i o r r e d c r o s s

No.31

滋賀県青少年赤十字加盟校(園)(令和6年度)

校 種	加盟校(園)数
保育園・幼稚園	9
小 学 校	164
中 学 校	47
義務教育学校	2
高等学校	13
特別支援	1
計	236

健康・安全 奉仕 国際理解・親善

CONTENTS

- 滋賀県青少年赤十字研究推進委嘱校の取り組み
- リーダーシップ・トレーニングセンター
- 青少年赤十字指導者中央講習会
- 加盟校応援プロジェクトの取り組み紹介
- JRCカルタ
- 事業計画、編集後記

自ら

研究主題

学び、考え、表現できる子の育成

～自分の思いを明確にもち、生き生きと表現できる子をめざして～

令和5・6年度 第47回滋賀県青少年赤十字研究推進委嘱校
長浜市立北郷里小学校



本校では、滋賀県青少年赤十字研究推進委嘱校として、「気づき 考え 実行する子」の育成をめざし、国語科を中心に「伝える力の向上」に向けた研究を二年間進めてきました。相手に伝えるために目的意識や相手意識を大切にすることや、国語科のつきたい力を明確にし、魅力あるゴールを設定することで主体的な学びを追究してきました。また、国語科に限らず、日常的に言語表現できる場を設け、原稿に頼らず自分の思いを自分の言葉で表現できるようにしてきました。その結果、明確な目的があると、子どもは主体的に学習に取組、大勢の前で話すことも慣れ、自信をつけていきました。さらに、他者との対話を通して自分の考

えを整理し、様々な場面で自分の思いを生き生きと表現できる子どもをめざして取組を進めてきました。十一月二十二日の研究発表会では、「健康安全・防災・親善・奉仕」等の実践目標に関わるテーマで、国語科「話す・聞く」単元の公開授業を参観いただきました。参加者の皆様には、必然性のある身近な話題から、気づき、考えたことを、主体的に伝え合う子どもの姿をご覧いただけたのではないかと思います。その後、県教育委員会主催の川端様より指導講話をいただきました。県内より多数のご参加をいただきまして、深く感謝いたします。また、研究発表会の開催にあたり、日本赤十字社滋賀県支部の皆様をはじめ

め、関係機関の皆様からご指導、ご支援いただきましたことに心から感謝申し上げます。本校では、現在も、目的意識と相手意識を大切に伝える力の向上をさらに進展させ、国語科という教科に留まらず、学年を越えた相手を対象に、「気づき 考え 実行する」学びに取り組んでいます。また、日頃よりご協力いただいている地域の赤十字奉仕団とのつながりを大切にし、奉仕活動を継続させています。来年度は本校の創立一五〇周年を迎えます。これまで培った力をもとに引き続き「気づき 考え 実行する子」の育成に努めてまいります。

青少年赤十字 リーダーシップ・ トレーニングセンター

滋賀県青少年赤十字指導者協議会
指導部長 南原 正和



8月6日、7日の二日間、栗東市、森の未来館において、滋賀県内の小学生15名、高校生4名の合計19名が参加のもと、滋賀県青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンターが開催されました。トレーニングセンターは、赤十字の精神や青少年赤十字の理念を活かしたリーダーを養成するため、次のような学習を行いました。

①赤十字概論

学校生活と青少年赤十字の関わりや、歴史を学びます。

②ワークショップ

グループで学習、体験、集団行動をして、リーダーとしての力をつけます。

③なかまづくり活動

自ら企画し、仲間とコミュニケーションをとります。

④V S (ボランティアサービス)

みんながよりよい生活をするために必要なこと（ニーズ）を考え、実

行します。

⑤フィールドワーク

チェックポイントをグループで回りながら、青少年赤十字の知識・態度・行動を学びます。

トレセンは、「誰も号令をかけない、大人からの指示がない生活」が、特徴的です。青少年赤十字の態度目標である「気づき・考え・実行する」力が求められます。トレセンでは、各プログラムが始まる時刻の5分前行動を意識したり、掲示板から情報を集めて行動したり、常に自分から行動することや注意深く考える必要性があります。また、異年齢とグループングを行い様々な体験をすることで、コミュニケーション能力の向上や自主性の伸長が期待されます。昨年も、トレセンを通して子どもたちは、大きく成長することができました。



私のできるは
誰かのためになる

滋賀県青少年赤十字指導者協議会
県指導員 寺西 達朗

今回初めて指導者中央講習会に参加させていただきましたが、まず、北は北海道から南は九州まで、日本全国から青少年赤十字の先生方が参集されていることに驚きました。同時に、一昨年度創設100周年を迎えた守山市発祥の青少年赤十字が、現在では日本中、世界中に

広がり、その理念を大切にしながら日々指導に当たられている同志ともいえる先生方がこんなにもたくさんおられるのだということに改めて感じました。

講習会の中では、日本赤十字の最新の活動についてお話を聞いた後、先生方と活動事例や課題について話し合ったり、青少年赤十字の活用についてポスター型教材にするグループワークをしたりしました。最新の活動についてのお話の中で、日本赤十字のパネル展示等に載せられているフレーズ「私のできるは誰かのためになる」が紹介されました。短い言葉ながら、誰かのために自分のできることをしようという気持ちを湧き起こさせる言葉だと感じ、グループワークの中でも、ポスターの中にその言葉を使われているところが見られました。誰かのために自分のできることをする、その素晴らしさを、今後青少年赤十字の活動を通して子どもたちと学んでいきたいと思っています。

加盟校応援プロジェクトの 活動をご紹介します

～青少年赤十字は加盟校を応援しています～

東近江市立玉緒小学校

児童・教職員の
危機管理意識の高揚を
目指して

東近江市の南東部に位置する田園に囲まれた学校です。外国にルーツをもつ子どもが多く在籍し、緊急時の指示の理解が難しいことや、安全に対する意識が多様化していることから、児童も教職員も危機管理意識を高め、緊急時に必要な行動を「自分ごと」として考えられるようになることを目指しています。特徴的な取組を紹介します。

①五、六年生 着衣泳

万が一、川や海で落水したときに自分の命を守ることができるように、着衣泳の学習をしました。講師として日本赤十字社滋賀県支部から三名にお越しいただきました。服を着た状態で水に入ったら自由



②引き渡し訓練

昨年度の大雨による引き渡し時の課題を受け、引き渡し訓練を実施しました。事前に教職員で何度も話し合い、二度の「訓練の訓練」を実施し、訓練後もすぐにふり返りをしました。一番の成果は、教職員が「自分ごと」として考え危機管理意識を高める機会になったことです。また引き渡しカードについても協議を重ねてクレジットカードサイズにし、いつでも携帯してもらいやすくなったことも収穫でした。

③教職員 食物アレルギー研修

給食によるアナフィラキシーショックの可能性のある児童・教職員が複数いるため、年度初めの給食開始前に実施しました。実際を想定してロールプレイを行うことで、緊急時の動きや改善策等について積極的



に意見が出る有意義な研修になりました。

④PTA チャリティーバザー

能登の復興のために何かできないかという声があがり、地区夏祭りバザーを実施しました。たくさんの方が体操服や学用品を提供してくださったり、子どもと一緒に募金を呼びかけたり、わずかなお小遣いから募金してくれる子がいたり等、多くの協力がありました。収益金は一番被害が大きかった輪島市内の六つの合同小学校へ寄贈しました。取組を通じて、災害はいつ起こるかわからないという意識が生まれると同時に、助け合いの大切さを感じるよいきっかけになりました。



皆さんの活動をサポートします！

青少年赤十字メンバー・加盟校応援プロジェクト

例えばこんな活動に...

自然にふれ合い、人やものの大切さを学びたい！



環境美化活動しよう！みんなで育てたホタルの幼虫をきれいになった川に放流しよう！



清掃活動に必要な備品、ホタルの飼育に必要な物品の購入に充当してください！

自分の身を守り、自ら考えて行動できるよう防災力を高めたい！



避難訓練と防災学習を実施しよう 防災グッズや防災マップを作成できたら良いなあ



必要な物品の準備に充当してください

日本赤十字社滋賀県支部では、青少年赤十字加盟校が行う自主的かつ意欲的な教育の実践活動を支援し、その活動成果を広く普及することにより、命の大切さを学び、他者を思いやる心を育む青少年赤十字の一層の振興を図ることを目的として、本事業を行っています。(上限5万円)

お問い合わせ▶

日本赤十字社滋賀県支部 青少年赤十字担当まで

JRCカルタがつなぐ、 助け合いの心



守山市立立入が丘小学校の卒業生である森岡優さんが「JRCカルタ」を作成しました。このカルタは、JRC（青少年赤十字）の活動や理念を楽しく学べるよう工夫されており、多くの人にJRCの精神を伝えることを目的としています。カルタを通じて、子どもたちだけでなく、さまざまな世代に「助け合い」の大切さを伝えたいという思いが込められています。

森岡さんがこのアイデアを思いついたのは、小学校5年生の時に参加した「リーダーシップ・トレーニングセンター」がきっかけでした。奉仕活動やフィールドワークを通じて「気づき・考え・行動する」態度を学んだ森岡さんは、「自分にできることは何か」を真剣に考えるようになりました。その後、学校での清掃活動を思い付き、友だちに声をかけ

て実施していく中で、「もっと多くの人にJRCを知ってもらいたい」という強い思いが芽生えました。身近な「カルタ」という形で、JRCの理念を広める方法を考え、学校の休み時間や長期休みを活用して約1年かけて完成させたのが、この「JRCカルタ」です。

森岡さんは、「多くの人に日本赤十字社を知ってもらい、助け合いの心を育んでほしい」と話しています。完成したカルタは、学校だけでなく、将来的には老人ホームや避難所などにも置き、さまざまな世代の人たちが遊びながら日本赤十字社について知り、深く学べるようにしたいと考えています。森岡さんの想いが詰まったこのカルタが、より多くの人に日本赤十字社の大切さを伝えるきっかけになることを期待しています。



編集後記

JRCしが第31号をお届けします。本誌作成にあたり、ご協力いただいた皆さまには深く感謝申し上げます。昨年は、年初めに能登半島を中心とした大規模な地震災害、さらに夏には、北陸・東北にて相次いで大雨災害が発生いたしました。こうした中、多くの県内青少年赤十字加盟学校の皆さまが災害義援金の募金活動を実施してくださいました。皆さまの心温まる活動に感謝申し上げます。

これからも青少年赤十字活動がより多くの子どもたち、指導者の皆さまに広がり発展することを願っております。



令和7年度青少年赤十字主要事業計画（案）

月	日	行 事	実 施 場 所	期 間	参 加 者
4	下旬	指導部役員会	日赤滋賀県支部会議室	1	会長・副会長・顧問・指導部長・県指導員
5	下旬	リーダーシップ・トレーニング・センター指導者養成講習会	東京都・国立オリンピック記念センター	3	青少年赤十字指導者
	29・30頃	第1回滋賀県青少年赤十字高校生連絡協議会	未定	1	高校生メンバー、指導者
6	中旬	群市支部長会(午前開催)	近江八幡市内	1	会長・副会長・顧問・都市支部長・指導部長
		青少年赤十字指導者協議会第77回定期総会並びに研修会(午後開催)		1	県内加盟校指導者
	下旬	青少年赤十字指導者研修会	甲賀市内	1	県内指導者
	未定	全国指導者協議会総会・研修会	日赤本社	1	会長
7	中旬	近畿ブロック指導者研修会	日赤大阪府支部	1	青少年赤十字指導者
7	中旬	リーダーシップ・トレーニングセンター打合せ会	甲賀市勤労青少年ホーム	1	県指導員
7	未定	群市主催トレーニングセンター	各支部	1	各支部メンバー
8	未定	指導主事対象青少年赤十字研究会	日赤本社	1	指導主事
8	4・5	リーダーシップ・トレーニングセンター	甲賀市勤労青少年ホーム等	2	小・中・高メンバー
10	30・31頃	第2回滋賀県青少年赤十字高校生連絡協議会	未定	1	高校生メンバー
10・11	30~3	青少年赤十字国際交流事業	日赤本社／東京都・国立オリンピック記念センター	5	高校生メンバー1名
11	19	第48回滋賀県青少年赤十字研究推進委嘱校研究発表会	近江八幡市立島小学校	1	県内指導者
12	中旬	指導部役員会	日赤滋賀県支部会議室	1	会長・副会長・顧問・県指導員
2	初旬	群市支部長会	日赤滋賀県支部会議室	1	会長・副会長・顧問・都市支部長・指導部長・賛助奉仕役員
3	22~26	青少年赤十字スタディー・センター	山梨県・東照館	5	高校生メンバー2名

通年事業：青少年赤十字メンバー・加盟校応援プロジェクト事業を実施